

August 5, 2019

【前日の為替概況】ドル円、米中貿易摩擦激化懸念で106.51円まで続落

2日のニューヨーク外国為替市場でドル円は続落。終値は106.59円と前営業日NY終値(107.34円)と比べて75銭程度のドル安水準。トランプ米大統領は、中国に対する制裁関税「第4弾」を9月1日に発動すると表明。中国側も本日、対抗措置を取る姿勢を示したため、米中貿易摩擦激化による世界経済の悪化懸念が強まり、リスク回避の円買い・ドル売りが優勢となり、106.51円まで続落した。ダウ平均が一時330ドル超下落し、日経平均先物が260円下げたことも相場の重し。

「トランプ米大統領は対中制裁関税の発動延期や中止にオープン」とのCNBC報道をきっかけにショートカバーが強まり107.28円付近まで反発したが、クドロー米国家経済会議(NEC)委員長が「対中追加関税延期の可能性については何も聞いていない」と述べたことで上値は限定的。

7月米雇用統計は非農業部門雇用者数変化、失業率は予想通り、平均時給は予想を僅かに上回った。

ユーロドルは続伸。終値は1.1108ドルと前営業日NY終値(1.1085ドル)と比べて0.0023ドル程度のユーロ高水準だった。トランプ米大統領の欧州連合(EU)貿易に関する発表を控える中、独・仏10年債利回りが過去最低を更新したことを材料にユーロ売り・ドル買いが先行し、1.1078ドル付近まで下押ししたが、米長期金利が低下するとユーロ買い・ドル売りが優勢となり、1.1116ドルまで反発した。

なお、トランプ米大統領はホワイトハウスで開いた署名式で「EUが米国産牛肉に対して無関税の輸入枠を設けることで合意した」と発表。市場では「今回の合意は米欧関係の改善につながる」との見方があるものの、依然として自動車や航空機、デジタル課税など幅広い問題で摩擦を抱えている。

ユーロ円は4日続落。終値は118.39円と前日NY終値(119.00円)と比べて61銭程度のユーロ安水準。「トランプ米大統領は対中関税延期の可能性を閉ざさず」との報道をきっかけにドル円が上昇すると、ユーロ円にも買い戻しが入り118.92円付近まで上げた。ただ、米国株相場の下落を背景に投資家がリスク・オフの動きを強めると円買い・ユーロ売りが優勢となり、118.27円まで反落した。

【本日の東京為替見通し】ドル円、米中貿易戦争や中東・朝鮮半島の地政学リスク警戒で続落か

本日の東京市場のドル円は、米中貿易戦争の休戦が終了したこと、9月の米連邦公開市場委員会(FOMC)での追加利下げ確率の上昇、本日からの米韓合同軍事演習に伴う朝鮮半島の地政学リスク、米国とイランとの軍事衝突への警戒感から続落が予想される。

8月中旬のドル円相場は、15日の米国債償還・利払いに伴う円買いで軟調に推移する傾向があるが、今年は、世界最大の年金基金である「年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)」が、外国債券での資金運用で、為替相場の円高に伴う損失を回避(ヘッジ)する取引を始めた、との報道もあり、市場の「クジラ」の円買いヘッジのタイミングに要警戒となる。

トランプ米大統領が、9月1日に対中制裁関税第4弾(3000億ドル・10%)の発動を警告したことで、9月上旬に第13回米中通商協議が開催されるものの、米中貿易戦争の休戦が終了しつつあることで、リスク回避の円買い要因となる。中国の報復措置としては、米国が中国から約80%輸入に依存しているレアアースの対米輸出規制や米国債の売却の可能性に要警戒か。

先週末は、「トランプ米大統領は対中制裁関税の発動延期や中止にオープン」とのCNBC報道に対して、クドロー米国家経済会議(NEC)委員長が「対中追加関税延期の可能性については何も聞いていない」と述べており、本日も関連ヘッドラインに要警戒か。

9月17-18日のFOMCでは、パウエルFRB議長が記者会見で30回も言及した「貿易(trade)」による「不確実性(uncertainty)」が、確実性を帯びたことで追加利下げの可能性(※8月2日時点:0.25%利下げ確率は88.8%)が高まっていることで、ドル売り要因となる。

日米通商協議に関しては、9月の日米首脳会談での合意に向けて、米農産物の環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)並みの関税引き下げが撤廃の可能性、自動車輸出では数量規制か関税導入、そして為替条項の導入の可能性など、予断を許さない状況が続く。

ジョンソン英首相の下で、合意なき欧州連合(EU)離脱への警戒感が高まっていることも、リスク回避の円買い要因となる。

さらに、米国・欧州・英国とイランの緊張関係が続いており、日本も有志連合への参加を要請される可能性があることで、中東のリスク回避の円買い要因となる。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

特になし

<海外>

- 10:45 ◎ 7月 Caixin 中国サービス部門購買担当者景気指数 (PMI、予想 : 52.0)
- 14:45 ◇ 7月スイス SECO 消費者信頼感指数 (予想 : ▲8)
- 15:30 ◇ 6月スイス小売売上高
- 16:00 ◎ 7月トルコ消費者物価指数 (CPI、予想 : 前月比 1.60% / 前年比 16.90%)
- 16:50 ◎ 7月仏サービス部門 PMI 改定値 (予想 : 52.2)
- 16:55 ◎ 7月独サービス部門 PMI 改定値 (予想 : 55.4)
- 17:00 ◎ 7月ユーロ圏サービス部門 PMI 改定値 (予想 : 53.3)
- 17:30 ◎ 7月英サービス部門 PMI (予想 : 50.2)
- 22:45 ◎ 7月米サービス部門 PMI 改定値 (予想 : 52.3)
- 22:45 ◎ 7月米総合 PMI 改定値
- 23:00 ☆ 7月米サプライマネジメント協会 (ISM) 非製造業指数 (予想 : 55.5)
- 6日 02:30 ◎ ブレイナード米連邦準備理事会 (FRB) 理事、講演
- 豪州 (バンク・ホリデー)、カナダ (市民の日)、休場

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

【前日までの要人発言】

2日 08:13 茂木経済財政相

「(ライトハイザー-USTR 代表との会談で)通商協議を加速させることで一致」

2日 09:26 トランプ米大統領

「中国と合意するまで徹底的に関税を課す」
「EUとの牛肉に関する合意文書に署名する」
「EUで米国産牛肉の輸出を拡大する契約を発表」
「EUに対する自動車関税は検討の対象から外れない」

2日 10:54 麻生財務相

「為替の安定は極めて重要な要素であり、相場に注目している」

2日 11:03 菅官房長官

「市場の動向は常に注視し、万全の対策をとっている」

2日 11:50 武内財務官

「引き続き相場を注視していく」

2日 12:42 ポンペオ米務長官

「北朝鮮はシンガポールでの約束を果たす必要」
「北朝鮮との非核化に関する交渉が迅速に進展することを望んでいる」
「米国は、香港に関して、何をするか、何をしないのか手の内は明かさない」
「中国は長い間略奪的な貿易慣行を行ってきており、止めるべき」
「イランに対する制裁は上手くいっている」

2日 21:14 カーニーBOE 総裁

「合意なきブレグジットの経済的ショックは瞬間的なものの」
「合意なき離脱はインフレを誘発する」
「経済的なサポートは何でも行う」

2日 21:41 ローゼンブレン米ボストン連銀総裁

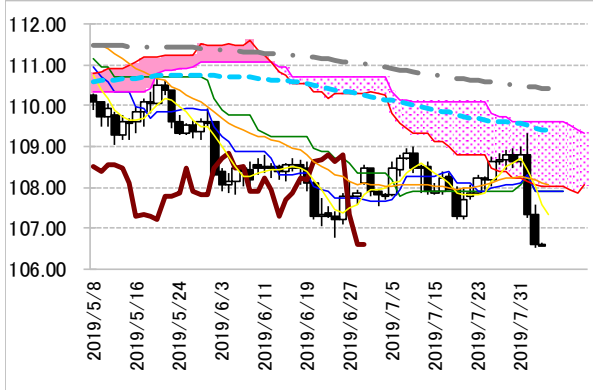
「緩和する明らかで説得力のある理由はない」

2日 22:48 クドロー米国家経済会議(NEC)委員長

「対中追加関税延期の可能性については何も聞いていない」
「先日の対中関税を受けての市場の反応を懸念せず」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

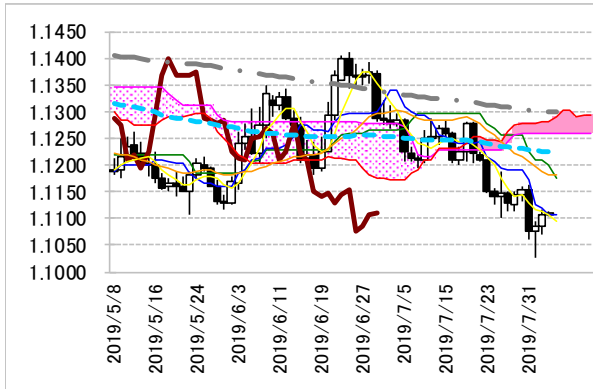


<ドル円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線と同値だが、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、売りシグナルが優勢な展開となっている。8月1日に109.32円まで上昇したものの、抱き線、2手連続陰線で反落しており、下落トレンド再開の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上回った場合は手仕舞い。

レジスタンス 2	108.03(日足一目均衡表・雲の下限)
レジスタンス 1	107.92(日足一目均衡表・転換線＝基準線)
前日終値	106.59
サポート 1	105.10(7/18-8/1の上昇幅の下方倍返し)

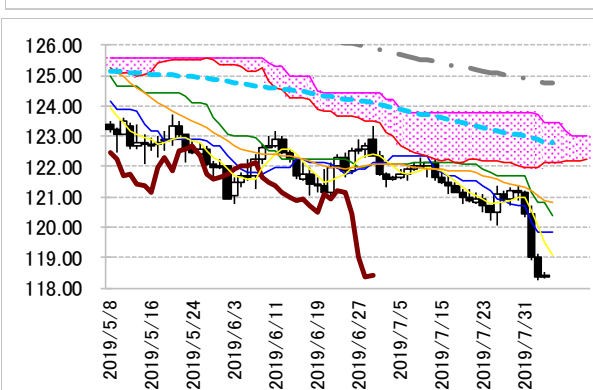


<ユーロドル＝基準線を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。8月1日は1.1027ドルまで続落した後、孕み線、2手連続陽線で反発したが、7月31日の大陰線の中心部を下回っていることで下落トレンドは継続か。

本日は、基準線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.1202(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	1.1108
サポート 1	1.1027(8/1安値)

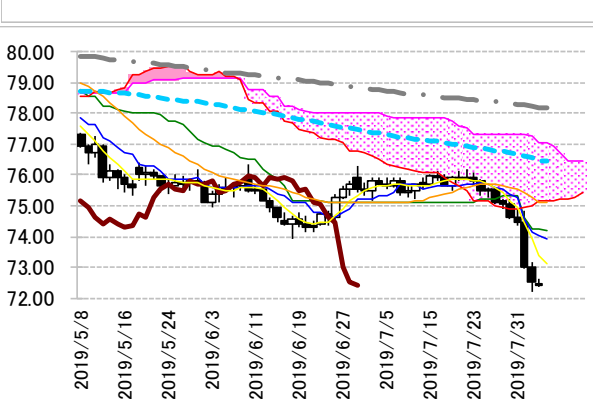


<ユーロ円＝転換線を抵抗に売りスタンス>

陰線引け。一目均衡表・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。陰線新安値4手で下落しており、本日陰線新安値5手となれば、下落トレンドが確定する。

本日は、転換線を抵抗に売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	119.83(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	118.39
サポート 1	117.31(2017/4/21高値)



<豪ドル円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。6手連続陰線により、下落トレンド継続か。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	74.03(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	72.50
サポート 1	70.64(1/3安値)

